

七七七

しじゅうくにち

「俱会一処」ということばが、『阿弥陀経』にあります。「ともに（俱）一つ処に会う」という意味です。「一処」とは、阿弥陀さまのお浄土です。考えてみれば「ともに一つ処に会う」ということは、私たちの身のまわりを見渡して考えますと、じつにたいへんなことです。たとえば、家族です。茶の間でといった空間的な集合はありますが、その集合は完全な「一つ」であるといえるでしょうか。いくら仲むつ

お墓

まじい夫婦であつても、いくら親思い、子思いの親子であつても、ほんとうの「一つ」にはなりきれないというのが、人間というものです。



お浄土は、この世のあらゆるいや憎しみをこえて「一つ」になるという理想世界です。「俱会一処」は、まさにこうした私たちの願いをあらわすことばです。亡き人やご先祖と私たちが、世の断絶やあらゆるを超えた世界（お浄土）につながっていることの厳肅さをたしかめ合う場、それがお墓です。祖父母から親、親から子、子から孫へと永遠のいのちの中に生かされていることのありがたさを、しみじみと味わわせていただく場でもあります。